



「宮桜会」会長
松田 真義
(21回卒)

「新入生の皆様並びに保護者の皆様、ご入学誠におめでとうございます。」

さて、近年世界を取り巻く状況は新型コロナウイルスにより予測もしなかった事態となっております。皆様の生活も大きく変化する事を余儀なくされた事と思います。宮崎日本大学高等学校には、皆さんの為に努力を惜しまず熱意を持った指導をして下さる先生方がたくさんいらっしゃいます。新しい生活様式の中でも、素晴らしい友人達と共に有意義な学校生活を送れるよう支えになってくれる事と思います。そして、ここで巡り会った縁を卒業後も強く繋いでいるのが、宮崎日本大学高等学校の同窓会である「宮桜会」です。様々な業界で活躍している大勢の先輩方が、世代や業種や地域を超えて絆を深めています。

吉田松陰先生が残した「学問とは、人間はいかに生きていくべきかを学ぶものだ」という言葉があります。限られた学生生活がかげがえのない時間となるよう、大いに勉学や部活動に励んで下さい。そして、卒業後は「宮桜会」の一員として誇りを持って母校の発展の為に共に努力していきましょう。

第20回 **頑張っている卒業生**

※懐かしい卒業生がいたら連絡して下さい。

宮桜会事務局: 学校法人 宮崎日本大学学園内 担当: 木村浩之(21回卒)
TEL(0985)39-1121 E-mail: info@miyaoukai.com



しらと あやのり
白土 文海(6回卒)
(旧姓 椎葉)

プロフィール

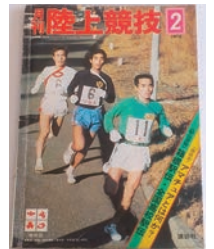
昭和46年 宮崎日本大学高等学校 普通科 卒業
昭和50年 中央大学 経済学部 国際経済学科 卒業

*「最後までやりとげる」・・・箱根駅伝で学んだこと

宮崎日本大学高等学校の皆さん・OBの皆様、私は椎葉村出身の白土文海(68歳)と申します。現在は水戸黄門や偕楽園(日本三名園)で有名な茨城県水戸市に住んでいます。

私は中学校で陸上競技を始め、高校時代は柳田先生のご指導のもと、毎日のようにグラウンドを何周も何周も走り続けていました。その結果3年生の時に全九州高校陸上選手権大会5000mで15分26秒の記録を出し、6位に入賞することが出来ました。

今思い起こすと、この試合が私の人生のスタートだったように思います。この頃「運動も勉強も怠けないで一生懸命頑張る」ということを、苦しさの中から学びました。そして、東京の大学へ進学し「箱根駅伝を走りたい」と思うようになり、箱根駅伝の名門校中央大学に入塾して、4年連続走り抜きました。その中でも、2年生の箱根(第49回大会)



第49回 箱根駅伝

は復路6区の山下りで、日体大・大東文化大と激しく競り合い、1時間00分18秒で前年までの区間記録を更新しましたが、12秒差で3位でした。3者激戦が「月刊陸上競技」の表紙に載り、今でも我が家の書棚で輝いています。箱根駅伝を4年間走って学んだ事は、友情・信頼・克己心等いろいろな場面で限りなく多く、私の人生の礎となっています。

大学卒業後は、病院で扱う医療器械を販売する会社で64歳まで勤め上げ、今は大好きなゴルフを楽しんでいます。

*新入生の皆さんへ！

御入学おめでとうございます

私は、高校生の時「箱根駅伝を走る」という目標に向かって努力しましたが、目標は何でもOK!です。夢を持ち、その夢が叶うまで諦めないで努力してください。



医療法人玲心会 理事長
はるびゅうクリニック 院長
はる びゅう なりひと
春別府 稔仁(11回卒)

プロフィール

昭和63年 金沢医科大学卒業
昭和63年 鹿児島大学医学部第2内科入局
平成10年 介護老人保健施設サンセリテのがた開設・施設長
平成17年 医療法人玲心会 はるびゅうクリニック 院長
平成23年 医療法人玲心会 理事長

医療法人玲心会 事業

はるびゅうクリニック/短時間通所リハビリ
介護老人保健施設サンセリテのがた/入所/通所リハビリ
介護付有料老人ホームエコルたちお野/訪問看護ステーションふるる
居宅介護支援事業所サンセリテのがた/大崎町地域包括支援センター
小規模通所リハビリテーションつらぎの家

です。すべては日大高校から始まりました。私は友への感謝を忘れず、今を大切に生きています。

<生徒のみなさんへ>

学生時代は瞬間に過ぎて行きます。今できること、今やるべきことを見逃さず、夢に向かってチャレンジしてください。自分の未来と人生のため、志を高く持ち、自分を信じて邁進してください。道は自ら開くもの、夢は自ら叶えるものです。

このたび「宮桜会だより」への寄稿の機会をいただき、懐古の時間を過ごしました。折に触れて母校の繁栄と活躍の様子を伝え聞き、大変嬉しく、また誇らしく思っております。

宮崎日大高校を卒業して四十数年が過ぎ、現在私は鹿児島で医師として地域医療に従事しております。私にとって日大高校は、医師としての人生の礎を築く上で欠かせない友との出会いがあった場所です。私は日大高校で「生涯の友」と呼べる素晴らしい友人たちと出会いました。還暦を過ぎてもお、心おきなく語り合える無二の親友たちです。私は在学中から医学部を志望し、日大の付属校推薦にも託しましたが、医学部は難関で現役合格は果たせませんでした。医師への思いを断えず、一からやり直す覚悟で浪人しましたが、医学部受験の過酷さは想像以上で、毎日長時間の勉強を強いられ、それでもなかなか成績は上がらず、先の見えないつらい日々を過ごしました。周囲には医学部受験を途中でやめる人もいましたが、やめれば医師にはなれません。「諦めるな」と自分を奮い立たせても、自信を失い弱気になることもしばしばありました。そんなときいつも支えてくれたのは日大高校の友人たちでした。気心の知れた友人たちと過ごす時間や励ましの言葉は、不安や迷いでくじけそうになった心を立て直してくれました。「諦めない」気持ち維持できたのは、友人たちの支えがあったからです。

私は今、医師として社会に貢献できることに大きな充足感を感じています。今があるのは、辛く苦しい時を支えてくれた友がいて、そのおかげで諦めずに医学部合格を果たすことができたから



はるびゅうクリニック